

会議録（要点録）

会 議 名	第 2 回 第 3 次八王子市教育振興基本計画策定検討会	
日 時	平成31年1月23日（水）午後7時00分～8時40分	
場 所	八王子市役所 本庁舎 804会議室	
出席者氏名	参 加 者	和田孝、高橋洋、関口眞吾、中原教智、新庄良輔、真喜志尚子、石渡ひかる、野牧宏治 ：座長 ；副座長
	教育委員会事務局職員	設樂恵 学校教育部長、斉藤郁央 学校教育指導致導担当部長、瀬尾和子 生涯学習スポーツ部長、橋本盛重 学校教育政策課長、穴井由美子 教育支援課長、野村洋介 学校教育指導致導主事、清水秀樹 スポーツ振興課長
	事 務 局	三枝信博 学校教育政策課主査、持田勝 学校教育政策課主査 上島加奈子 学校教育政策課主事、宮下康佑 学校教育政策課主事
欠席者氏名	参 加 者	香取武雄
	教育委員会事務局職員	石黒みどり 図書館部長 岡本洋 生涯学習政策課長、太田浩市 中央図書館長
次 第	1 開会 2 議題 (1) 施策展開の方向「14 誰もが楽しめる生涯スポーツ・レクリエーション」の各施策について (2) 学校選択制について 3 その他 4 閉会	
公開・非公開の別	公開	
傍 聴 人 数	なし	
配 付 資 料 名	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・第1回第3次八王子市教育振興基本計画策定検討会の会議録（要点録） ・資料1「今後10年間を通じてめざす施策展開の方向『誰もが楽しめる生涯スポーツ・レクリエーション』」 ・資料2「学校選択制の概要について」 ・会議日程の変更について ・「八王子市スポーツ推進計画」中間見直しの素案について ・八王子市スポーツ推進計画（素案） ・八王子市スポーツ推進計画中間見直し（素案・概要版） ・学校選択制の検証結果報告書 	

	会議の内容
	<p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 施策展開の方向「14 誰もが楽しめる生涯スポーツ・レクリエーション」の各施策について</p>
事務局	<p>「資料1」及び「『八王子市スポーツ推進計画』中間見直しの素案について」、「八王子市スポーツ推進計画中間見直し(素案・概要版)」、「八王子市スポーツ推進計画(素案)」にて説明。</p>
参加者	<p>計画の数値目標は、何を根拠に数字を出している、どの程度達成可能なのか。また新規で外国人と日本人のスポーツ交流とあるが、それはどのようなものか。</p>
事務局	<p>素案でもお示ししているが、数値目標の考え方は、計画終了時点で、欧米の実施率と並ぶ3人に2人が週1回以上スポーツを実施することを目安に目標値を67%に定めている。スポーツの定義は散歩なども含んでおり、ここ数年の実施率は63%ほどとなっている。また、総合型地域スポーツクラブは、地域体力づくり推進協議会(23地区)に4つ加えて27団体の設定を目標値としている。現在のところ20団体であるが都内の自治体では多い方となっている。</p> <p>外国人と日本人のスポーツ交流については、海外交流事業によりスポーツ及び文化交流を図ることや市内関係団体と連携して市内スポーツイベントをPRすることを多文化共生推進課と連携して模索していきたいと考えている。</p>
参加者	<p>外国人のスポーツイベントの参加率が低いのか。</p>
事務局	<p>そういうわけではない。数値として把握していないが、2020年の東京オリンピックを契機に外国人の方にも積極的に参加していただきたい。</p>
参加者	<p>現在、公園等は規制が多く、子どもが気軽にスポーツをする場がない。日常的にスポーツできる環境を充実させる施策を考えて欲しい。</p>
事務局	<p>昔と違って気軽にスポーツをする場所が少なくなっているように感じる。スポーツする場の整備・確保を基本施策として掲げているが検討していきたい。</p>
参加者	<p>学校開放の自由度は高くなっているのか。</p>
事務局	<p>学校の施設もスポーツ施設と捉えている。現在5つの総合型スポーツクラブ等に学校施設の管理・運営に携わってもらっている。仕組みづくりを行う上での課題と認識している。</p>
参加者	<p>八王子市は、スポーツエリートを育成していく考えなのか。普通の子どもたちをスポーツ好きにしていくことの方が大切ではないか。</p>
事務局	<p>本市としてトップアスリート育成ではなく、オリンピックなどとの交流を通して、多くの子どもがスポーツを始めるきっかけになってもらいたいと考えている。</p>
事務局	<p>スポーツ推進計画は、子どもから大人まで生涯を通じてスポーツに関わっていくというのが大きな柱となっている。例えば、学校の休み時間等を活用した運動の実</p>

	<p>施や体育協会などと連携したスポーツ教室の推進などに取り組み、スポーツをするきっかけとなって欲しいと考えている。</p>
参加者	<p>子どもたちが普段からスポーツをする場所がない。近くの公園ではボール遊びが一切禁止、木登りも禁止のため、ゲーム機を持って外に遊びに行くような現状になっている。</p>
参加者	<p>放課後子ども教室で子どもたちの怪我が増加し、ブランコやジャングルジム等は使用禁止であり、雨で体育館で遊ぶときには走り回ることが禁止になった。子どもは勉強だけでなく遊ばせることが大切。例えばキャンプや自然体験は子どもを育むうえで重要である。しかし、八王子市は自然が豊かだが他の自治体と比較してキャンプ場が少ないため、子どもに経験させたいことと現実とのギャップを感じる。</p>
参加者	<p>何もないところからスポーツをする場所を整備しようとしている印象だが、本市には山や川など、自然がたくさんあるので既存の場所を活用して欲しい。また、ライフステージ等に応じたスポーツの推進の施策に高尾山や浅川などの八王子市の地域資源を活用したスポーツの場の設定というような概念を入れると八王子らしさを盛り込めるのではないか。</p>
参加者	<p>川で遊ぶことは禁止になっている。八王子市にはホテルも見ることができるようなきれいな川があるので、遊ぶ場として活用して欲しい。</p>
参加者	<p>ケガに対する補償問題で、施設の持ち主の責任が大きく、みんな臆病になってしまっている。これを解決することは大切だと思う。</p>
参加者	<p>市内の小・中学校においてオリパラ教育は実施していくべきだが、教員の負担にならないように取り組みをする必要がある。今後どのようにやっていくのか。</p>
事務局	<p>東京都教育委員会からの指導計画で年間35時間オリパラ教育に取り組む必要がある。既存のカリキュラムと関連づけさせて、なるべく学校に負担のないような形で進めていく。</p>
	<p>(2) 学校選択制について</p>
事務局	<p>「資料2」及び「学校選択制の検証結果報告書」にて説明</p>
参加者	<p>学区を変えないでという説明だったが、資料2の選択理由のアンケートの結果によると「通学距離」が選択校の方が近いと答えた人が42%もいるのに学区を変えないことに違和感を感じる。</p>
事務局	<p>本市はいくつかの村が合併してできた市であり、そこに多摩ニュータウンなどの造成で子どもが増えたことなど、様々な条件の中で学区を設定した。また、学校教育法で子どもの通う学校を指定するという規定がある。学区はそのまま、「学校選択制」によって選択の幅を広げている。</p>
参加者	<p>自由選択になると、素行等が悪い子どもの進路先と異なる学校を選択するために学校選択制を利用している方もいる。教育内容ではなく、個人の問題で選択転入・転出が増えるのは問題である。根本的に学校選択制そのものに疑問を感じる。そう</p>

参加者	<p>いった問題は各地区にあるのではないか。</p> <p>部活動が盛んな学校を選択する生徒が多い。選ばれなかった学校においては、生徒が減り、教員が減り、部活動も盛んでなくなるため悪循環になっている。</p>
参加者	<p>ある中学校では施設が新しいこともあり地域外から来ている生徒も多い。しかし、地域外の生徒が問題を起こしても、地域に子どものことを知っている人が誰もいないという課題がある。その学校では、校舎を建て替えているときはほとんどの人が別の中学校を選択したが、地域との繋がりが疎遠になったと聞いたことがある。</p>
参加者	<p>八王子市は、地域運営学校の展開を重要施策と位置付けている。地域運営学校の特色を有効に発揮するために、地域の人と子どもの顔の見える関係が大切である。例えば、災害時を想定すると、日中大人は勤務地にいるので不在が多く、中・高校生が大きな力となる。いじめや部活等の関係もあるので、ある程度は学校選択制は必要だと思うが、小学生はなるべく地域の指定校に、中学生はある程度区域を限定して例えば6地域くらいにしぼって、何かあったら徒歩で帰れるくらいにするような制限が必要。どうしても指定校や選択できる学校ではないところへ行きたい場合には、指定校変更制度を使えばよいと思う。</p>
参加者	<p>八王子ビジョン 2022 基本構想基本計画の中で、大きな柱として地域コミュニティの活性化とある。地域コミュニティの中で子どもの存在は欠かせない。それなのに学校選択制で地域外の人が多くなるのは矛盾を感じる。また、昔とは交通事情も違うので、学校選択制の以前に学区域の見直しをするべきではないか。さらに部活動や施設の問題など、学校の努力だけでどうにかなるものではないので、ある程度学校選択の範囲を規制していくべきだと感じる。</p>
参加者	<p>ある中学校では、学校選択制があるから廃校になっていない。廃校にならないように、地域の人々の活動により地元の中学校を選んでもらおうと努力している。そのため学校選択制を完全になくしてしまってもよいかは分からない。</p>
参加者	<p>指定校の学区域の変更は今までの歴史・経緯などを考えると大変難しいと思うが、これまでの議論は反映しているのか。</p>
事務局	<p>学区域の見直しのご意見を今までもたくさんいただいている。学校選択制でより近くの学校を選択する子どもの割合は多摩ニュータウンの方が多い。例えば由木中学校は学区域が広く、区域内に多摩ニュータウンができたため、選択転出が多い。しかし完全に距離に合わせて学区域を変更させてしまうと、消防団等の従来の町会の仕組みが崩れてしまうし、子どもや孫に自分と同じ学校に通わせたいという家族の気持ちもある。一気に学区域を変えるわけではなく、地域の意見を反映したうえで、緩やかに柔軟に対応していく必要がある。</p>
参加者	<p>資料の数字の中には私立学校に行った人は含んでいるのか。</p>
事務局	<p>含んでいない。本市で私立学校に行く人は小学校で約1%、中学校で約10%となっている。</p>

参加者	<p>小学生の保護者は子どもたちの安心・安全に対して関心が高い。日々のランドセルの重さや夏の暑さ、地震等からわが子が安心して登下校できるかを心配している。そのため学校の選択の理由として通学距離は重要となる。登校時は同じ時間にある程度まとまって登校するし、大勢の人の目があるが、下校時には人がいなく閑散としている。保護者は安全・安心な環境の中で自分の子どもに学校生活を過ごして欲しいと考えている。</p> <p>学校選択制は八王子市では、根付いている仕組みである。もし制度を見直すのであれば、保護者にしっかり説明する必要がある。</p>
参加者	<p>学校選択制には問題点もある。全国的にも学校選択制は一般的ではないのになぜ八王子市のように交通の不便な場所で取り入れたのかが疑問である。また、生徒の増減が激しいと学校経営上の問題点も多くあるが、教育委員会では増減のあった学校に対して支援する仕組みはあるのか。検証結果を見ると学校選択制は本来は学校の特色で選ぶはずなのに実際は距離や施設の新しさ等で選んでおり、教育の特色で選んでいない。予算や人的配置の制限があるので市立の学校ではどれくらい特色を出すことができるのか不明である。私立学校や高等学校のように各学校の特色を出すことや競争させることは義務教育学校には適していない。さらに、八王子市では地域運営学校やコミュニティスクールによって地域に根差した学校を目指し、小・中一貫教育を推進しているのになぜ学校選択制を実施しているのか疑問である。八王子市では指定校変更制度があるし、いじめ等の問題や不都合がある場合は、教育委員会に申請して認められれば他の学校に移ることもできる。多くの自治体で学校選択制の見直しを行っているので、制度の見直しを将来を見通してこの機会に検討してほしい。</p> <p>3 その他</p>
事務局	<p>第4回検討会では、「第3次基本計画の構成案」及び「今後10年間を通じてめざす施策展開の方向」について会議の内容とする予定だったが、個別施策について先に進め、個別施策の方向性が決まってから、第9回検討会でその上位施策である、今後10年間を通じてめざす施策展開の方向や、第3次計画の構成案について検討を進める方法に変更したい。なお、会議日についての変更はない。</p>
座長 事務局	<p>次回会議の開催予定について事務局から説明願います。</p> <p>次回の日程は2月20日(水)、場所は市役所本庁舎8階801会議室。時間は午後7時からを予定している。次回の会議では第2次八王子市教育振興基本計画の成果と課題についてご意見をいただく予定です。会議資料は、開催日の1週間前を目途にメールにてお送りする。</p>
参加者 事務局	<p>今まで配付された資料の中に成果と課題の記載はあるのか。</p> <p>点検及び評価の報告書に平成29年度の取り組み状況については記載してある。</p> <p>4 閉会</p>

座 長

では、本日はこれにて閉会とする。